



曾5
84
卷6



かづみ五の書

吉野山中北

秋とて。草ハみあづかきとて。さびへんせび。さざ尾を
のうびり。むちくのうとて。むづくのうとて。うなれ
うなれ。よなれ。

さる
かまねべきかとせお尾毛。れぞう。くとくとく
をかとねうびり。かく。あそびうとくとくとくとく。
し人。をこふらべうなれど。トトやさざれとくとく。

熊澤氏がニ海西流し。ソアリソヒキハ。神書ハ。むの傳

へをそぞりかで。もぐ後の事ふ。寓言しておまち。みる者
か。道德の学めたりし事ふ。寓言のあやうさぞ。や。せりて寓
言をそぞり。莊周あどひやうに。理をゆきあはば。よがくへ
は。神聖けいすく。凡人のうえも。からうに。寓言へ。これぞ。
今もやそへ。ゑじか。とこづ。宣もすことをうきて
ひ。まづ。神の陽曲ミフミを。いもす。寓言。と見る。めじく。もや
ぬ。仰のぶ。しやま。もべ。儒もハ。草中にあやした事もね
き。あくまどぞとが。あちふ思ひ。うか。神代の事。もを。
み。寓えどく。儒もの。かむ。うじ。うん。の
どう。近き事の神学。もと。ふ。よ。もく。え。う。の

（例）かえりやもへきくうごるをや。

うやくの説

り人とよりの。ちかにきをみて。神代よりの物ぢる
と記して。まほへとらひゆ乃うかくや。かげ上つて
ふ・首カシテとよぶ者て。まほたちふ・耳とよぶみて。おりうくの
声をよくきく。ありてけ上つ方に。目とよぶあ二つありて。よろ
づの物乃色カラくらば。のくらくらゆく。えりくらくらゆく。まくら
ふ・鼻とよぶりも見て。物のうべうぎ。又下ふ・口と云。物あり
て。ふくよくを考へぬ。くらしきと。ごく。舌派もく
くらす。ふ・まの都ミクニまみ。ふううきて。匂とすりて。あひ

事はなしを。又首は下めたり。とありの者であふ。
岐ありて。指とつぶ。此よりびをもくつかひて。あはりどくあし。
あの物を造りぬきり。又下つゝふ。足とくわね。うそり二つみて。
うそかくもくべど。るまは山をものづくらむて。うがこまでも
うきゆきつ。うて又胸の肉アキに居きて。心とくらみのまつ。
こへうが中かす。いとらやしたぬりて。色も形もぬきぬ
か。上の件アツ耳の鳴れまき。目の物を元はりぬのひ。毛足乃
もくも。皆はひのまくをかでてゐる。まよふ此人といひ
一物。ある時アリかくやして。やくくふまくとりてゆくを
か。ほしきのよみ。が乃とまど皆やみて。うきうき

しきびきとてや止みふきと記しもやひ書次。ちやの
足アシをみら。何んの伝アシテて。神代きんくふ。ソレこの
まうやくにゆうあくべき。もべくく理リもねく。きくねく
寓アヒかくとハラ。うそいし。・
又上ちくどり。人とひて。神代ふきと。の。まやうじと記
して。ば人とひる物の。出アガりやく。やづも。老某の。まつ。
男女をみる。その男女。承アシテりしほがふ。まく。めく。成
トトウ。女のもく。やくく。小ぬくらふがりて。ナ月
とくすみ。ひ。もくく。あがて。ふそふまへり。何ふうあ

ありはすや。今まう事も今うとがでも。あやーとり思ひ
ほひもぐきば。そやかうゆる。物ふ物とはあや
かくさる。ひひりてゆまば。うやーかくぬまうきこごそよ。

上の三件みつまし。又をうへたまゝ、説をぞ思ひえり。まほ
まづべゑか^ハ事めようびかく。う。あくまづりゆくやあう
く。ごくは。神代の傳説^{ツタヘコト}もね。もくねく。あうふきこゆ。ま
ぢやう。一つちうじ事。小ほきて。ちとそひくまし。しゆく
を。す。此人をよみやと一人。化けひでむと。きむす。いふか
く。まくまく。ゆく。しゆく。しゆく。しゆく。

佛もさうざへ。よふもからうづく。うやつもあへす。わきもす。まや。
かくゆの説トキコト。やとかくこゝはゆめどとも。人乃そもひうぢり
し。うとば及ぞぬとくらみて。かの人のももくみ減りて。人をほく
らんとまれども。づひりり作りうとくらむ。ばざるがめくわまと。
神代のつゝくど。うち圍の内レホの慾の。ふくめへもくねくわくうわく
うと。よき人を遣つてゆきふゆ。きをや。此ゆのりとくらひに
もよて。神苦シテ事シテども。うつべち。がふのあとうりうりうりうり
ゆ。そりゆくあうふきとゆども。すとくわく。人の智乃及
びづくをかりかく。はまことうりおまねうもせうと
を。さくりゆく。う。

平を改めたれども

平治元年十二月。平を改めたるより今まで。總管不^レ信
で^レれども。弟か亂のからうをかゝれて。そ^レうかつて海
をり。和泉守は大鳥。あ^リりやうで。神^ミを御すりて。と^レれき
み^レく。か^ハいこ^ミよか^トもて。身^レじ^ルき^ミを^レも^レよ
ち^ミの神。平治也^レか^トふ^スくら。此人の^ミハ^ミづし。
か^ハざえ

愚管折ふ。因ちほ伊周。人^レが^ト。や^マを^レく^レむ^ト。まつり
す人^ミ。か^ハざえも^トく。詩^シを^レく^レみ^ト。く^レく^レと^ミ
き^ミと^ミ。か^ハざえと^ミ。そ^レど^レし。漢^カ字^ミ。い^フし。モ

べ^レく^ミと^ミハ。被^レ廢^レ書^シねど^ミ。學^ミの^ミと^ミを^ミい^フ。
と^ミか^トつ^ミ言^フふ^ミ早^ミ字^ミの^ミと^ミべ^ミ。
三代實^ミ綱十三の^ミも^ミ。宣^ミ令^ミふ。早^ミ尔^ミ罪^ミ那^ミ倍^ミ不^ミ賜^ミも^ミ。此
早^ミ字^ミ。か^ハみふ^ミ訓^ヘ。此^ミ詞^シか^トり^カれ^カ了^ミ不^ミし。ほ^ミと^ミ
よ^ミな^ミハ^ミう^ミば^ミ。

中^ミト^ミ少^ミ年^ミハ諸王^ミわ^ミり^ミ。

園大曆。康永三年乃^ミ除^ミ目^ミ。從五位下^ミ為^ミ實^ミ王^ミ。^天曆^ミ御^ミ後^ミ。
貞和二年^ミの除^ミ目^ミ。從五位下^ミ宗^ミ友^ミ王^ミ。^天曆^ミ御^ミ後^ミ同^ミ三年
の除^ミ目^ミ。從五位下^ミ資^ミ方^ミ王^ミ。^寛和^ミ御^ミ後^ミ。延文四年乃^ミ除^ミ目
か^ト。從五位下^ミ資^ミ能^ミ王^ミ。^寛和^ミ御^ミ後^ミ。所^ミど^ミある。このほ^ミまで^ミハ諸

王とタトカウシトアリ。

車の紋の事

曰く事か。車の文の事。さうりてかのアソヒまで。今の方のぶく。家定紋と云ひゆきなり。やあせり。肇と車の文の事。ちる。定義てはまほやくあら。

老の事

ハ百歳うち合ふ。老の隆伝。然れど。おもむむに曰く。むりみて人のつまふ老をよむか。復成。判云。然ふも。と

と見る。可爲。猪。

かんでねかぬ

台記別記。藤原多子。名字勘丈か。抑後宮。以_テ從_フ草合_ヲ字_ラ。為_ル名_ト之人。贈后茂子。茨子等。於_テ皇胤_ヲ吉例也。と_ハり。サ_{サウチ}を草合とかくも。

勘解由がぬを。大後みかしでのことぢとあり。

古考傳

後家良天。享禄元年十一月十六日。こぎうしの傳。ト。逍遙院す。ト。ト。左陽歎記。アリ。

いりとも。ソム。向賀至。大正。車田。諱。英。政。佐。

佐。小何とぞして。ソム。御座。アヌ。アヌ。アヌ。

でくよもつひし御ふ大江匡衡為大臣供養淨妙寺願文か我若向後至大位心事相諧者爭於茲山脚造一堂云々とてり漢文ノハ乞づし。

太上皇御内幸治

古内門内内臣通報去治了嚴嶋御幸は道記小吉幸
かゝせ給ひて後乃不かいもくかくてひやせてもももぐな
む船どゆしてこそくごとヤシモウテ内まくぢゆご
きまえし。とけり帝の内幸治をづし。

物を傳レシ小塩五斗^{五斗}吉田^{吉田}五斗^{五斗}ト
貞觀儀式平野祭條^条。皇太子於神院東門外下馬。

神祇官中臣迎供神麻灌^キ塩水訖就休息舍先是進
一人率執幣舍人至神院東門曳神麻灌^キ塩水共至
祭場授神祇官^ト行^ト。今はすすり酒を傳レシ小塩水と
きくハ古きとけり。ト

くらうん

阿佛尼の^ト孫^トの^トはやくも人の多^トふぎつて
あふり又くらうんを^トも^ト傳^トりき^トふり^トく^ト人^トう
らむ^トふり^トば^ト又くらうんと^トや^トと^トせ^トど^トう^トと^トう^ト
の^トハ此^ト口^ト傳^トり^トと^トふるくらうんと^トり^ト。

五
菩薩樂

江 家次第興福寺供養儀小菩薩樂行。菩薩十六人擎供花云。こなぞつたり。今世ノ當麻の経り修業と
りあきらめハ。そよよとよもよがゆりを。
かくらえとひふす
景も油より。佛この別の生小かくらふかくふくは
まば。一秀乃ちふくあり。まくまくと。とくわくと。すみせのま
かくらえと役ふと。とくわくと。

ワラハ
まべのまくらもとつてあり。五難組と云ふよ
小委巷兒戲有馬城不論縱橫三子聯則為城城成

則飛テ食ム人ノ一子ヲ其ハ它ノ或ハ夾ク或ハ挑ク就シハ近ニ則ハ食ム之ヲ不レ能シ飛ル
食ト也トといつムよりム物トりム日ハ本ニ紀ム小ニ城トさムと訓スる也ト
もううり韓語シ絶ミバむムとつムまム取ムもム馬ハ城シ

三
即

現報靈異記 小文忌寸氏ヒサシタニ人ヒトよ字曰上田三郎ミツロウとひこ
とひく聖武天皇の御号ミコトノメイコとしより三郎ミツロウ取ヒカルい
ふ名ミツルからと字サナといつは今イマのきの俗ハラハラ名ミツル。
ゆく望ヒツキむをミツル。

抄スツと棄スツ流リュウ。俗サトビゴト云ヒトコト小ほコトコトとヒトコトよも。うちヒトコトのヒトコトわざワザり
小ヒトコトやヒトコトかヒトコト。終ヒツとヒトコトうとヒトコト。又ヒトコト日ヒトコトゆヒトコトおヒトコト弁ヒトコトはヒトコトゑヒトコトがヒトコトもヒトコトまヒトコトてヒトコト矣ヒトコト

アラカニトウモロコシ。即ちハ今アキラム。

のれども

まき峰の峠又あら道とつゝと後の方々ハ先駆とぞ古多
集彦ア波ノカガの山やすめくもをさへモ一ノより
多くうへふひすへ乃もともすめくもとよしとく
えく人まうねくみくわくわくとくわくわく
わくはほのそはえありぎばくわくじうはくわくわく
あらのまくらうけはととなどりひて道といふもとあ字彦アふもス
道とくと吾道とくとくがお事かくまくとく小道とく
ふもとくとくがお事かくまくとく小道とく

不^レはまの事と。古く集よ、行かふて、いづともく。この
花とのわざは、多くて、さうかうといたる。
といひ、うそをうそと、相手ハ一つも見て、おなかへこらへ
らへる。うとあじゆ。文うじうりも。たとほきのきぢも。又
漢文と隋文とのまざり、うそと、又うと相とがちを字あ
せうとがち。つまづかのまざり。むをうごきて、これあべきと
ざざ。こもうちまみよしとて、ゆくもつけんゆかふおど
かくふくし。

今は女コハの言イハ小強コハヤヒ飯エビをヲあこアコむとトりそりソリ. 大神宮年中行事

小御強オコともる也。又菜サカをまりととつふも。曰ド書小御シガ回八
種シロツとつと。松マツがシヨハラうちせミスくそト。

ちうきチウキ多タメ女神の社ヒメノミコト。

大神宮雜事記ヒムカニツシキ。弘仁四年九月十六日。豐受ヨウジ。宮ミコトは大内人シモツ。神
主真房マツルが妻カノミのアメノ。詣アメノて。玉壇ヨウバンの下シテにシテ。產コウジめり。穢ハラ
小コトよシテ。勅使シラセねシラセて。真房丈婦マツルシモツ。大祓オハラをハセせ
しシ。うシ。そシ。まシ。きシ。よシ。して。ちシ。めシ。女ヒメ。居リ乃ナ内
小コト入ル。禁シムせシム。流シム。先シム。巴ハラとト。すシ。前シム。腰ハラ
姓サカニ。ほシ。神ミコトの社ミコトノミコト。忌シム。ぞシム。トシム。

大神宮小法人ヒムカニシモン。

同書小。承平四年九月御祭ヒムカニツシキ。參官人千萬。不論貴
賤シテ。云シ。くシ。うシ。とシ。バシ。のシ。くシ。もシ。かシ。とシ。めシ。大
神宮ヒムカニ。私幣シモヒをシム。とシ。ハシ。禁シム。制シム。かシ。とシ。詣アメノ
もシ。おシ。べシ。くシ。かシ。びシ。りシ。ふシ。

狂カク。

狂歌カクガ。とシ。文粹モンブの一シ。源順ヨンシンの歌カクの小序シモシキ。

但シテ。かシ。のシ。きシ。今シ。いシ。狂カク。おシ。ハシ。どシ。

狂カク。

今はヒナカ田舎タカ小て。村シマの長シマサをシマシマ。文粹モンブ二ニの卷シマ。延喜
二年三月十三日シマニミツノヒの官符シマヒの文シマ。新立庄家シミツヤシヤ。多施苛法シラフシス。

と行り類聚三代格子をゆゑて、之の領主より、家
を以て立候て、ちの事代執せし。二の事代は、
機のかぎりとゆふ。

今之機ハタクかぎりとゆす。和名抄機ハタクの條。機
巧之處。和加豆利ワカヅリと行ふ。ばくは訛焉トコロ名也。和名抄
今本小字利字を和小誤ハシラシ。古き本に利と行ふ。
江戸の地名一覧を記す。

宗祇法師が回國雜記シテスホウジ。次の日瀟茶渾も
ちて新羅シンラとゆふ。かたりじき。佐多サト。名取ナメダ
とゆふ。中ふ。悉の島シマとゆふ。海シマ。松原マツハラを記す。

みやまみよ。おのちうつとふりりゆもとばものびのる
のねむかひあし。うじばとて。あい一川アツカツとゆふ。ううう
ううう。ううう。ううう。ううう。ううう。紫の唐
といへる。あく。ううう。れをう。といつ。此そむく。ほそく。ば
斐の島ヒマ。今は東嶽山ヒマツカの地チ。すく。ちて。あり。バ。
不思ハシラシの池シマ。とゆふも。多びの岡ヒマツカ。すく。ふやうん。

略記は

田ド申ふ。おきしゆにゆとゆふ。うかづりぬ。ぬりかし
うにて。かわす。ゆかし。うかづり。とゆざ。とゆざ。こ
のまく。うかづき。ほと。黒人マラソリ。けり。バ。う

此をぎくはくと云ふ事。しけどもなむかとぞ。
まづのゆきやへあつた。わがう。

家ふあやこつゝハもゝかくめどもくろお波。畜生しとひふ。
りひくはよりても。隋の文帝がゆふ。陳夫人とひく
ふ太子廣がきよりとく。文帝嘆て。つゝ怒つて。畜生
何足付ニ大事トといづれとけり。

今、手本、麻ろ、アリ、ヌ、首、胸を、布、圓、ト、リ、モ、ハ、ト、人、布、單、ミ、シ

水
元

ひりのあり。布纏フタシより書シテたり。此地カツチより神カミを名メニす。一。
えびを三郎
原中盛衰記小成姫康和後亮の鬼界ゲイガイが嶋シマに流シテて
行ハシつてほり。かの嶋シマ小巒ラジガク岳タケシマとよ山ヤマ有アリて。その山ヤマ。
夷エビス三郎殿ミヨウジンとよし神カミといひまつりて。岩殿イワジンと名づくとい
ひ。神祇官年中行事カミキヤシナカツヒジあり。戎エイ三郎殿ミヨウジンとよし此神カミの事モノ。
いとふ。神カミの殿ジンとよしも。そづれしきゆ。

卷之三

いせゆのゆの中めう
まちよりあくすみをそーとせんへまぢひも
うりやしも此うはきハアトモじがふかくじばあくば今、とやれ

かくまと後つひよ。そのうひよて。まつともじもつて
ちよと。ひのちよ。まわくまとつあきねみだきのゆう。
海のうりてつるのうれと。細小をうみて。此うめえばうれえ
もく人うめえか。

いせ物語ある本より事
伊勢物語あり。ある本より事
て。ある字にて書く。ゆし。六條宮御撰と。も。もふりぎと。れば。
みの親王のれも。うさぎと。えりと。ゆげと。うさみ。傳うて。後のゆし。
うさぎと。の字は。あて。うさ。ふしつ。ねぐして。うさぎを。かく正す。
かく。ふじぬとのうさぎ多か。そが。中か。闇うを苦勞。指之血を

及後かどやうふうきよハシムチアリ也。又紫ヤリタマシキ
もあり。又東洋熱写。えくみを逃利。かどちも。喜得アモト
グヘミ。然レテ。おひをまと。なんといふ辞か。何字を用ひ。そ小社。
少々諸字を用ひ。も。おひを。あうの。モ。タマジ。忍テモ
思惠流。絵へを繪江。又うへうへ。あどのへを。みか江。身
もと。こどもや。あどの。もと。もや。とつあ辞を。面親。と。忠志。と。者。
摺。と。書は。う。あ。こ。そ。は。假字ハ。今。の。書。と。り。う。も。じ。や。ど。の。ゆ
ね。ど。ハ。も。も。く。得。も。て。わ。き。を。い。ふ。か。く。得。ど。ハ。む。け。ふ。わ。う。く。や
う。も。と。う。て。あ。く。み。え。せ。か。の。あ。く。ご。と。う。て。あ。字。ハ。ま。ぐ。て
も。う。と。か。く。に。り。も。お。も。う。と。も。組。と。よ。う。の。假字本。と。う。べ

て考へよ。もじふよにあきとあるて。かみのうき
か此車はよしむ。まくわくび。そくへど。ことしもうの一つ
の車わらーを。後よあるかとお車^キ。まくわくべき。されば今
も。一車かとぞねべき力のし。かくふいと。いぢぬと。さう縣
居大人乃。此物語を解^カりて。よつよの便字車をば。今車と
ひき。車とふうして。此車をしと。古車とひ
て。うちほをて。おとく。とくとくを用ひ。ととまれば
つみまき。お家を。おの徳^{アキ}。引きとく。いとくとふり。わ
とをかり。おの假字^{アシ}を。づのふとく。から心を。ば車め。まぐ
うと假字め。みどりて。よふとぞき。うども。いふる

もひり手とくへもくこくあえぬぞかし.こそえちうれしう.うる人の
ゆき.舊本よりあや.あらのむし.一つも.そとかのりふのとは.
こよかくすくわて.たゞ今はあかぢりのそせん乃.およびが
まあるまゆちづるゆき.とどどもまくのゆきを.^{バキ}
うじ.やがてあきる人乃.みづくめをさざわせり.おひふか.
まづ今け京とせうての書^{フミ}といひまづ假字乃.ほほち.をも
差別^{ワキ}き用ひとくは.ば車ハ.おとぐくは圓をもて.みづちな
らば.とく近く古字アホ.ねぢりて後の人あくべ.ハ.といえあ
らぬとし.又うきつむくゆ五言ば.句は頭アモをもとうけふ.
うれもア人あくべ.五カド.とくまつよべきを.五えといひ.あせりや

あつありじよどき

あつありじよどりといひし袖も。おらまのらふをあらのあは。
旅宿乃ほ小隣奥の伝夫^{シノブ}。おこりぢよどりて。髪をみくゞ
みやうかさりもす。おぼさりとひ。贋仲^{ハラタケ}が贋法臆
断ふも。伝ま^{シマ}より。むく^ス捨てぬ^スとす。名無し。いなうが
ごく。御師のいせぬ傳^{シナフ}。埴衣草^{シナガサ}の形を。紫め色を
て捨^スてぬ^スとぞ^ス。隣奥あり^ス石二つある。もろうて
まくわゆ^ス。傷ちしむく^ス。おもり衣を。あくふてて
まくわゆ^ス。己^ガあく^ス。おもきわく^ス。傳^{シカレ}を失^ス。さて 埴衣草^{シナ}
の取^スれど^ス。おも^スりて。おのが意のみ^スとし。もろう^ス。どく

あつありじよどり。いせぬ^スとおもふ。さくやう^スとももくべく
おもど^ス。おはゆふ。おも^ス集^ス。おも^スおだ^スおも^ス。おも^スおも^ス
のくうをへきりとづく。こも^スお^スみ^スととよも^ス。あつ^ス
正^スれれど^ス。おも^スと。あ^スせま^ス。かの紫^{シナ}は色をきく^ス。おも
とつうの改^ス。じよ^スせぬ^ス。おも^スべく^ス。とつう^ス。おも^ス
おも^スべく^ス。り^スお^スま^ス。おも^スく^ス。おも^スとよも^ス。おも^スば^ス
のう^ス。おも^スか^ス。おも^スかのま^ス。伝^ス。おも^スが^ス。おも^スと^ス。おも^ス
まくわゆ^ス。おも^スと^ス。おも^スおき^ス。埴衣草^{シナ}の袖相^ス。おも^ス

きぬは又ぞうよしをいもじよあひまへつゝりか
らぞかのまぢゑみとつあがかりみどりとすぬいへ行ひ
せも拂ふ形をれどり行ふとくまくらるかつまてみどり
しるんもづとのねりうとかてもほじとせうづくゆおより
あふれくる形うでハかまくべ又夜もうりふて拂深あ
かまづきぬと行ふをや。また又お伝ま新より出とふ
ては破玉て布ねど深ふを詰めたり貢儀といふ。右てむと
まれももめぐて近古の大内内侍の式ゆ。諸國所貢
染布の色とあどそとるをや。きり衣とがのうあくみてす
拂ふとひもる拂ふとひもる拂ふとひもる拂ふとひもる

どうぬうんふとよと物と名づく物をとて用ひてとハ今と
ちも内じとしまて伝ま。石井。石井。石井。からまくわりとひ
へふきし。まきどまてふをうとさんりあうかとまく。かと
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
信支那うりぬきりとハ漏きをや。

右近る場のむすり日のす

左多集の御ちよと伊勢地院。右近る場のむすり日のす
り。こちいりかくたてくして。おれりのとくともうちも。うと
がりふりとねまどらづとくもんねとく。とくが中ふ。とくと
くとく。殿門の袖中抄。まよ毒^{テツガヒ}日ハ射手の近場舍人。褐^{カチ}

の尻レリを。あづまひりもまきりて。まへりもまもあひりふといつま
まきとゆく。ほきどきあま手テツガヒとつる。五日あ日の騎射を。
師の考ハジメ。ち内チナのる場かて。アモウラ。モウ日をか近場のる場
かて。アモウカハジメはまに。モウダ。ダモウダ。モウ近。モウ場のる日とハ
ハジメ日をつよ。モウダ。モウダ。モウダ。モウ近。モウ場のる日とハ
引柵ヒラ。モウハ標柵ヒラ。モウ人。モウもれつと。モウ場の埒チを。モ
モウと。モウ人。モウ人。モウもれつと。モウ場の埒チを。モ
て標を。モウと。モウと。モウと。又標を立タツ。モウ日。モウ標柵の
日とハジメ。モウと。モウと。此税も二つと。モウ取ハサウ。カモウふ
此シテハヤク。モウ難義ハラフ。モウ有ハサウ。

尾張人天野信景が亡らせ、塙元とつぶゆもハ、いせぬ能
のち不ふくともす。かくもふとまかふ。おおづけくらうり。
まふいもく。あくちやじゆく祕くまで。されぬ清小遊がく。
塙竈波又し。海民達とやくふ。唐色小砂を聚めて。堆をね
ト畦をなす。潮水ありて砂畦をむき。取りよらずハ。猶
を汲てむ。日くかかると後々。砂を積みひのねを化
里て。日小さくは。うきよかたやじゆとく。室小畠士の形うり
心あり。その客室小居て。海をめぐるふう。時をもと人な
くおもふことあるぢり。ばつや。まくらもぐくふやとおげし

タニシトモヤドリヒコトアサハコトシ。おのとすも。ちやくは、
スレハ、少をほみあがて。様のとくしとく。あいと。うらと。おぐま。
はてと小鳥音をし。ふなき形。しるぬし。師の左。アハ。
あね布か。たり。鳴者と。声をうりて。かの山乃。鸣海の。鳴海
アハ。チヤドリヒコトアサハ。難波の川尻の。とくに。まれ。ハ。いと。伝
うまみ。從。川尻。アハ。ヤグ。川。ぢり。とく。あ。べ。き。い。で。う。
やぢり。と。ひ。ま。と。バ。川尻を。先。い。き。う。傳。も。ね。く。あ。く。とも
も。アハ。と。し。ま。の。アハ。川尻。アハ。あ。ぐ。う。く。一。鳴。海。アハ
う。う。伝。を。や。又。あ。え。ち。ひ。を。ち。だ。か。り。ま。ね。あ。ゲ。ま。し。や。ど
の。アハ。を。あ。ね。布。み。ハ。體。と。虫。代。用。ひ。く。形。の。も。と。も。

タニシトモヤドリヒコトアサハコトシ。おのとすも。ちやくは、
スレハ、少をほみあがて。様のとくしとく。あいと。うらと。おぐま。
はてと小鳥音をし。ふなき形。しるぬし。師の左。アハ。
アハ。チヤドリヒコトアサハ。難波の川尻。アハ。ヤグ。川。ぢり。
とく。あ。べ。き。い。で。う。傳。う。う。傳。を。や。又。あ。え。ち。ひ。を。ち。だ。か。り。ま。ね。あ。ゲ。ま。し。や。ど
の。アハ。を。あ。ね。布。み。ハ。體。と。虫。代。用。ひ。く。形。の。も。と。も。

ま。もしやがれど。海きぢりにかかふ。旅人のむすう
たはぐきかうじ。はくぢうよひ。うつてゆくと、
もくもくしてハシマリ。

東京に滞息す 東京の女侍

古事記小二條后は、东主のみやもじあくすき時をもせむ
徳不むり。东主の女は乃ひ方へえとつゝう。まづ二條后ハ、是
れ天皇の守宮し。貞観八年小女侍とめり候。同十一年承貞
觀生す。翌年十一月小女觀也。皇太子小主せ候。是と陽
成天皇にかそひます。こよどりて。元慶元年小守宮となり候
ぬ。すでのうひど。女侍まで。室をあはゆ母かず。まづを以て。東

宮の女房と東宮の内息所とをやせらるゝ勢沖が餘物ね寄
傳臆断あどひつてがやし。东主の母女は、房母の息所くふとし。
房息所とすひ稱す。女房ふまむ更衣下す。皇子皇女を生
むりたる人をやすひ称し。も既原氏の御事と見て。之より
物語り。羽童、又衣装とも。光原氏のことを。後も。房
也所といふと。おもひ告終し。御子代後、京ももて、こきを
詰りて。房息所とす。東主乃妃の御事と。御事と。此古
今集いせぬ傳うるを。房和天皇は東主小て。かくらの房
也所。といふは。いみづきも。し。东主の妃を。れぬふとす
まづ。後の事乃信稱す。アモウ。右。よかつて。とす。とわ。

おもを仰ひけ信称不まざれとてて。东あ乃は廻所
を官をすめ嫡妃ムカヒメをすし。おまへ母儀をすし。人
のまへま達をやといぞれも。とくとかなうてもうまし。东あ乃
伊女をすし。おのちのちのま達をびや。又东あ
の女をすきも。おのれ女をすとよそにせば以て。お息をもる
あとすきし。又源氏をぐるふ。のきは女房をど
うもみすみのぬわ。かとくとくの徳をば。うすて、うかと
特くして信成のまへ半はしとひ。うちおまへとへ駆ひて。
さうすげすきとこく。うかとくの老くをひきとく。
いふがや。とつかてて。おがくのかほほの信称かまへとく

まゝかとす。左小东家の妃を、息女とやせむ徳ありやうもあ
がく。その徳と思ひて、六條の息女とす。これ又うれましき
のみは、ゆびし。そのをきかのう條、れ息取とやせむ。前坊の妃をす
よふて、すには、わざば。前坊の嫁に、あを生むて、そのは、ゆき
をす。はるかとへきるじ。夫をねら女房更衣うごの、はるかとへ
す。アシと、いだかと、おねがひをや。又、おれ伊勢西條乃東毛の女房を、まゐる
よ。こども、東家の、はるかとへうつす。よどども、東家の女房と、ゆふ
き。此書は、うつす。よどきとも、おひがひぬ信法。ことひき、お
もひもひがても、そとく。まみの相本。まみの物語が、おむね、いたる
も、國史などのみづひとへ異かして、かやうめ称呼あるも、そ

ま。まよ本に穂^ホよりうしゆうび。やみハ少^シともめどりてまい。
やみハ少^シてあどハまつゝやこづらも。ねりの徳^ハども。うつ
の山^ハそくう。よがり^ハそとまもきも。いとく^ハゆまふ。ぼく^ハ
でもかざり^ハえく。かへでまのまハ。てふをもし。上乃そきのまく
まゆて。やうかよ。一つの格^サし。然^ハきまわるまもかぶゆを
まゆをゆくもとさく人^ハや。一^ハ三^ツもまきゆて。此難
まゆ。まよ本小葉^トちくふうりて。むかひてハ。いとつておきえり
や。まゆをゆくもとさく枝^ハ。げあハ。毛ふ^コがむざ^ハのゆ
まゆ。まゆひく。ちか^ハくも。秋^ハ。毛^ハ。毛ふ^コがむざ^ハのゆ
まゆ。まゆひく。ちか^ハくも。秋^ハ。毛^ハ。毛ふ^コがむざ^ハのゆ

うえのまへひき。またハテトおもをづこしきかく。又女の心をうふ
がきよし。上のゆふるが。別にあばひうちとく。けぬく
つらふ。女とハ五。もくくわが。上の文のまよ。女とも男ともが
く。つまくわが。もくくわが。上ふ。女とうべまえこ。まくせ
うのゆふ。うくは女とうべまえこ。うふまでハ。ゆく。ま
くハ男とうべまえこ。うくは女とうべまえこ。うふまでハ。ゆく。ま
く。或人ち。みていかへ。女ようじ。男こそへきども。まくめゑ。男の
見ていかへ。とすが。又男かへてハ。うけ女とうべ。よくかふへと
まと。下ゆく。人まつまのまの法。け女いとえ。くもくとう。け女
てある。彼男とうへてハ。うむ。ま

ハ妹タチが兄タチをタチまつへ行タチび。上タチかタチのタチがちタチの
妹タチが兄タチをタチまつタチとタチ。此條タチ下
のタチの女タチやタチもタチ兄タチをタチやタチてタチとタチやタチもタチ人タチもタチしタチうタチきタチ、其タチの
力タチもタチうタチびタチりタチしタチおタチもタチかタチてタチのタチ。とタチとタチばタチもタチうタチふタチむタチじ
やタチもタチのタチ。せタチどタチうタチべタチきタチとタチおタチふタチ、もタチうタチあタチうタチひタチとタチ人タチ
とのタチもタチハタチ、弟タチのタチとタチすタチとタチ。よタチくタチびタチてタチゆタチいタチふタチ、まタチくタチとタチゆタチとタチ
をタチとタチてタチ和タチくタチびタチ、ちタチれタチもタチうタチふタチとタチすタチとタチ。一タチのタチまタチとタチ
いタチくタチえタチもタチうタチびタチとタチてタチえタチてタチハタチ、係タチしタチとタチばタチとタチよタチ
ひタチりタチありタチふタチこタチだタチとタチかタチくタチわタチうタチりタチとタチ、がタチどタチやタチみタチべきタチ不タチきタチ。
もタチうタチ男タチかタチわタチきタチふタチ徑タチりタチ、まタチおタチやタチ小タチ男タチ女タチとタチうタチとタチ、男タチとタチ

ととふうがつうしゆを。すふよりて思ふか。うすひうらう人の。わ
どきべきや。ありふもむかふくら。被ふきのとつて。すがた。えまな
車ふ袖ふ浪度ナミダのとまほ。下るもむげふかきうそを。むかてこし。ほほ
ハモチコトコロ不ふもかくきを。あし。それぞうふご。神の廢のむべ。たまひ神
の廢とつぶれハ附くと。廢のはきと。下るの孫う。むどう
べきものしめとみ、得とみゆべ。女のみうかと。ふくら
の文まくともある车少てゆくと。但一かの車も。なく。新のうつりを
うじて、ゆ下小女とつよとぬくていぐ。うちまです。彼をう
まくはきてと。うとよき。ありふあやう。うちの神ニのほども。
いづとも。うもうもう。ともまもとて。おぎほれし。うとふくらや

まんじゅう。やくふるぎれを。下向ふうねもじ。正うれのえやくや
りびつあとし。かみをう。けう。行くやうで。ゆくやう
めり。とがくたぬき。うぶよつる。まくら。かくとハ。がまえく
はづく。ふうで。居人コトとすて。いき。かく。まよひたつ。雪とそりで。
めどりをまべる。けやく。めうりと火玉やう。うへまくわふ。け雲
の。うさぎよやかじく。きちやんとまとめて。男よく。とう
ごよく。に。但し。上う。車わらう。人とうとば。下わら男とつあと。ハ
きて。う。まわ。り。う。又。う。火玉やかじと。あ。まわ。女のかと。バ。
う。ひと。が。あ。と。も。う。ひて。と。つ。う。ハ。う。わ。と。も。生。て。い。き。も。と
まう。あ。と。まう。け。う。上。と。下。と。縁。あ。と。え。う。の。縁。う。と。い。う。

まちあ本小袖をいそひて、へとやうじゆをだ。又まちあ本小此うの次う。
女返尔付而、いづくまでかくわへうく。けあもをまわし。あわがり
ひてこそ。すいぞ。まちあ本小。かわがまつらとうす。今めぬままふ
さうんやも。為せんやまえまきも。ぬどひとば。為すしやのまわ。
死えんやまえハ。からくしてぬかく。といふうねをまご。別れいきぼうぎ
里野べーう。うづくのくも。うづくは。おきえうづくや。とまと
よみがえりぬく。おきえうづく。なまくもくえうづく。おきえうづく中ねり
き。ばけぬあきえうづく。まちあ本小。まちあ本小。ばえうづく
でうづく中ねりきとばとる。ふふうどをうづくふえうづく。すまこ
とこ。まちあ本小。あはれをぬむけせんもく。人をまちあ本

人をもつて。うらまく。ちまたあがち。けし。上り。ゆへ
今すと。お泊のねまを。もしや。そとハ人をまちるきてよ。
又男。いあくまよ。ひとき。けら。此條クタリからひど。まくらをす
ちよど。ス男女は。あびあわき。しよく。此泊し。けら。ぐわふ
くわふ。人となり。あ男ひよ。け泊づく。もくつまく
くわふ。人となり。あ男ひよ。け泊づく。もくつまく
て。男は。かで。け男は。因りむ。て。うらばれて。くつまく。
かで。ゆく。やまと。け。上。の泊。まふ。心つぐ。別條コトクタリ
が泊。まふ。乱ど。まくら。べ。ちう。じろまづ。まくら。せ。まの
下。小男は。とつたなくて。ハ。じ。又。まくら。この。音。つまく。

なまくらんと。おどりてべきよや。りえきんをもあきせていくだ。お
傳の地の辻つじへいづくそのもゆわりきんとるべし。おも男いせの
おみわりゆ女えく。お家本乍もと。女平ラとうよもし。もうくちこぶ
えく。お家本乍に。ち男とう。もうく男いせのふすりゆそいきて
えく。こへかは。いせのふね。女ふ。京かゆ。いきそく。とく。がふじ
のまゆきるふよりて。京かゆ。ふよみ。後よ高よ。次よも。う
伊勢野いせの女とぞすく。いも方いもよちとえく。げえの空うつの空うつ。うれえく
人を。あくし。いわく。まき。ふまき。波なみ。海うみの辻
ます。いづのまし今いまハ。うとかくも。うと。おほひすへかひきて。まよ
ともうりんといすし。うのひよ。くく。歌うた。うのうのう。うのう

のところへまことにし。やもしのつとりうふ。その日もくとく
はぬ。いづづくまでほのかし。お茶のちゆ。かねるをあげぬ
いう。ある本小野まこと。りうちとらば。まことよかくん。
枝奈ねもふ。もくはまとがるべし。枝奈のうちのまとつるく
あり。枝じたのまとから。人の筋とべきふらひび。みちのふりき
しやうきふとい。此あ徳の徳者ね。みづくさりもよし。り
けあよそる筋のすがく。かの筋とよし。みちのふるの上よねみて
きく。かとハ筋んごろかもせで。上よ。枝小草ませず。ゆい
をざれを。け羽ゆうわ羽くす。こよふうりて。ゆふ。筋元と見え
るく。筋づきとよもとばげ條う。筋といつは。告筋づきのす

かやぢん。上よと下よ。ゆく筋のとくをのまへとばし。かくの
おきをぬるるの院乃え。こもゆくぬ羽し。ある本に。うくのよき
その院乃とくとく。かのくみねうみとくとく。めくま
のくみとくとく。なまくとく。ぬくとく。ぬくとく。思へどもおもく。おねばく。
おねばくとく。おねばく。此例。右きうふ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。
おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。おれ。

でハシメテ。そやがて後つひ小此の酒を飲みて、くどくし。
まみやかにちよとつひかとて、まてくら。作者の語あきばらかと
いふもいふ。などばまで後つひ小よくてやうもん。とてを
べど、じくつたてつよつたり。おもゆかの小やうさんといふまで、
うひごく成^{サダ}ぼくもう傳し。むくつらまくハ。じくつけきてよや
ソふとしかくて今こそハ元老とよすへ。さうでうちも男めのうひ
ていづ言わば成^{サダ}傳む倍の中へり生ていづ。また酒ありとま
まくげ下小河あましもとて、ハ下小その日はといつてもよもあわし。
らうるるの多くる河とあきねを、うれしきを有ときて。うへからて
ほくのまくとてきうとを申矣も。勝也やまくと。乃く下

まくかくせば下小男勝^{ホカタ}だらくみに。ねくうりかくはく。高名本
かくすうする女をとむ。ノムレ。ノムレ。下ものう。又ノムレ
はくはくはくのノムレ。かくすうとすと。高名本みハビニ^ハ。上とハ
別條^{ノリ}にて。前^{アヘ}とハシ^{アヘ}。ノムレ。下とおもてと。行り。う。今ハ
ゆとふを勝くう。ゆとふをもおこて。かくいととすと。もと。高名本か
くすま翁のタハラ^{タハラ}と。ノムレ。ノムレ。とおもてと。上と。中と。うりは翁
と。うりは翁と。かの翁と。もと。おどりと。又おと。おと。上と。中と。うりは翁
まくまくと。うりは翁と。うの不よ。行ともいと。もと。うりは翁
の。うりは翁を。高名本小^{ホカタ}大^{オカタ}。高翁と。う。かがと。西宮記。う。

鷹飼王卿。大鷹飼者。著地摺。獵衣。綺。跨玉帶。鷄飼者。

えりとらふかよつたまも。ちみよど住吉トえく。ば條
もべく細くじ。他條の例ナ似ど。おきてものあら。しゆがうそと
えんまへぐく。大神の既形も俄シ。他條の例ヨリシイモド。ち
男ミトの佐古小引まー。説ひな。脚傳ナはくまうてよを。
れんでもえく。とよもうちられぞ。大神えく。などとくとくと
むつきとえくのえハ行キ。五モヤニの匂波。五モアモヤトキレバ。大
きくすやく。五モハ行キ。ど様にすきぬし。むく男久
あみ中に。ハテラシガのトハサトウ。むく女。うぶ。むく男めえ。
女のり。しがとこ。もべくのとふ諱ヘ。んぬきて。かくべき和と。かく
すじたまゆ。めうと。ハタマシテ。まとももあら。後の

かひりなどハ、どぐらべき少もううぢ。かくへ化アキ
カム。かの行やをとく。ううそで。おぬきのしゆきをか。文
かほんかもとべきよせ。おはまねふハ。えもいとじよさ
もまじり。まくしてそべー。注釋などとハ。うるう中か。い
あまハ。弊冲が臆断。師の古事記抄。かひるさん
かうきそく。もととく思ひえとく。ゆうとまて。もやくわ。
きがとくとく。ゆうとく。又とく。かひるやる。かうりゆーも
いせをねあるのいとく。えーととく。さねがくらをくとく。
せ先てくとく。とかとくのあく。うるう上の件がハあくつ

ほざかし。

業あ終たれゆはのうけ業

ちす業ふやまし。トマリめりあらめ。たまくま
終。ついゆくとくハ。うーかぞきのふきふといも
ざりし。弊冲のうー。こむ人のちとみひて。きくへう
よれきし。後の人を。祀さんとまくまくふくらうて。あらぐ
しにうへ。うへとく。かう。かう。狂言奇語をひきだ
せ。いやほとく。うへとく。狂言奇語をひきだ。ば多聞ハ。
一生かまこと。此うふううと。後の人に。一生の傍をうう

死やくしていつはやしのそばかどぞ。や
まゆまゆひき人をほ師をぐ。かくアラキ三
流神そおうまふ。まゆかづかいちしや。ちゆほ師ハ。よ人
ふまゆかづかへ。神そ者う学者ハ。いつまゆもども。ゆき。

陸奥も、さあもとも。美知乃久也。和名抄よハ美知乃於
久く行りて道え。奥とふまけ名乃也。バ。下かまくそくてつづけ。
美知乃久乃久。尔れり。多と申すの地。舊書。みづふき。みづのふと
のとひて。みづのふとひて。乃久とつよみのまわらて。正
づき。さきゆくか。乃久をもぶまく。じひき。まちむべ。まくを

又後りにしののふとよもみちぢを訛ヨコヘるよりまくば陸の
字。ねのえ家とあり。用ひとりとバ。かのまもじゆはく人を
うめれど。さかそうば。又しらべみちのまとこそいへど。みちとの
もつてても。ねうりし。今。いまだむしのまつひあつ。むげふ
りす。うじゆす。と。か。おひのと。さかねん。

重名のつづき城。和泉とかく。和の字はいつゆをもとめ。ほんと
かうとうがゆふりつを。ほんと。思へど。やがて
みとつあら。和泉殿あらとし。上泉下泉。すふゆも。うど。ば。まともあり
ゆふゆの名前とハ。海き。かくと。その他の内。府中村といふ家。

今も和泉の井^{アシ}にて。すこちては、此はあらまし。とくと泉
井上神社・和泉神社をさとて。或かと云ふ所より並に良^イ
かり。和泉志を云とばげ和泉井を舉てし。其水清且甘と記
き。かくて思へど。此傳か。上つ代より以降^{アゲハシテ}。甘かりし和
泉^{アシ}。かづと号^{イヒ}。和泉と書^{アキ}。墨人^{アシハル}
ど泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}
と。泉とのひうち^{アシ}。がとううりて。名をきくわがとバ。ゑん人^{アシ}

かくと同ドム^{アシ}。ひし。それを和泉の和の字^{アシ}。りと。あき泉^{アシ}い
えきんゆ^{アシ}と。おひづ。

鳥羽殿八月十五夜月見湯^{アシ}序遊

中右記云。寛治八年。八月十五日。天晴。午時許。候。太
納言殿御車後。参入鳥羽殿。先於宰相直廬休息。具
申^{アシテ}大納言殿。申時許。参入大殿。御直廬則引公卿令
參^{アシテ}先御鳥羽殿南御所。寢殿東面。女院同御也。女房
南東面打出。公卿座西廊居饗饌^{アシ}。人雖被著^カ。無^レ盃
酒儀已依^{アシ}。日暮^{ルニ}也。寄御船^{アシ}於東渡殿上。皇令^{アシ}乘^{アシ}給^{アシ}
大臣忠^{アシ}龍大臣。藤大納言中宮大夫。大夫忠^{アシ}龍大將

忠皇大后宮，權大夫公新宰相，中將宗通。此外宗忠，并在中將有賢。依召候御船，有別仰帥。大納言信經備中，守政朝臣可候御船者以御隨身被相尋向。已及數刻，兩人追被參加後出御船。御船指四人。判官代勘解由次官顯隆散位。忠清藏人高階為賢源家時布衣。上達部船。新大納言家右衛門督公實藤中納言基新中納言通江中納言匡忠仲。房龍宰相中將仲。右兵衛督俊雅中官權大夫能以武者所四人為船指衣。殿上人，船頭中將國信朝臣等四十人許皆布衣。此外御隨身副小船前行先於御船有御遊。藤大納言子帥大

納言琵琶。龍大將筭。宰相中將笛。宗忠筭。有賢琴。和皇后宮權大夫并政長朝臣付歌。先双調紀伊州席田鳥破急平調大平樂破伊勢海迴忽五常樂急帥大納言朗詠盤涉調秋風樂三帖青海破蘇合急各及數反于時雲收天清月明池上絲竹之調興入幽玄此間掉小船。但馬守隆時朝臣甲斐守行實朝臣供御膳牙盤三前有物。諸卿傳遙供之。次第在座遙上也。中官大夫被候陪膳公卿衝重便居船之緣御盃則給大臣大臣指龍大臣指關白次第巡流及二獻公卿船朗詠數度夜及三更從御船令上給

了^ス於^テ女院御方^東面被^レ講^セ和哥^ヲ題^云翫池上月序題帥
予勤仕^ス講師^ヲ左大臣為^リ讀師^講大納言哥^ヲ後頃而
頗^ル遲^く是^レ左大臣與^ニ關白殿哥^ヲ次第之更^ト也依^テ大殿
命先講^レ關白殿哥^ヲ次^ニ左大臣次^ニ大殿此間女房從簾
中被^レ出^サ三首哥^ヲ書^ケ薄樣三重被^レ置^ニ扇^上扇^{銀骨畫}_{國殊例同}
講^ス之皆以秀哥^ヲ也人^々感歎爰^ニ從簾中給御製於關
白^ノ閑白傳^ス獻大殿便宜^ト也大殿令氣色^セ講師起^レ座擬^ス
臣下哥^ヲ召^ニ新中納言通俊卿^ヲ被^レ講御製誠以優妙^{ナリ}也
不堪差歎滿座諷詠及^テ曉更各分散予今日殿上人
布衣中著直衣是為辨官人一人臣被^レ著直衣冠^ヲ時

可^ク無^レ便之故也加之勤講師役間數刻候御前尤^ニ為
善耳愚意之案已叶^リ禮法兩殿下烏帽子左大臣公
卿冠直但此中藤中納言基左宰相中將伊右兵衛
督雅^俊新宰相中將宗布衣也皇太后宮權大夫定衣
冠上皇御烏帽子直衣^ヲ大内六堀河天守御所
アテ多羅小笠^ヲハ白川上皇小笠^ヲ大殿^ヲアリ
ハ京極左翼白師实公左大臣^ヲ源俊房公^ヲ京極殿の内子
後二條師通^ス此皆内大臣^ヲアリ左大臣の次小笠後
又^スアリ^ス中右記^ヲ中房のち久松忠公^ヲ日記少^シ寛治元年
西月^ヲ保延元年十二月まで事記^ス合計七十

卷四と。をどものとおぐるより車ハ廻カタも所く行りし。
そうち金きひいもとえふぞ。寛治乃ア内も。家もとのいもと悉く
て。敵上人アシノヒトあるせりやどめす。

立田山小づミナミは

いよへ大和より難波ハマへも下は城ヨリ。立田山ハ。今け
くがり此コトは花乃河ハナノカワハ。そのあ。万葉九の毛ヲ。小鞍嶺ヲ
うか西ハタケ。又。小倉コウラ。さざ。今キのましと。あ。とおとばし。そのく
そ。万葉九の毛ヲ。小倉コウラ。村ムラ。と。ふと。ある。とおとばし。そのく
ね。立田神社タケニミサカ。いとをき。いはな。と。ふ。あ。だえ。し。ふ。河
人ヒト。立田山を。ざ。む。ハ。く。が。り。城ヨリ。ハ。河カタ。び。今キの立野城

なわといし。又此アシ。御師ミツシのいせぬ。うりけ古アラヒのあらふ附タマ。
上田秋成ヒサキと。以。か。人ヒト。考アガフ。か。も。経アガフ。て。そ。の。う。御ミツシ。立
き。立田川タケニミサカ。ハ。よ。く。ふ。ま。る。と。く。ご。出。り。く。但し。立田川タケニミサカ。
立田川タケニミサカ。と。い。立田川タケニミサカ。ハ。立田山タケニミサカの。川カワ。
立田川タケニミサカ。と。い。立田川タケニミサカ。ハ。立田山タケニミサカの。川カワ。
立田川タケニミサカ。と。い。立田川タケニミサカ。ハ。立田山タケニミサカの。川カワ。
立田川タケニミサカ。と。い。立田川タケニミサカ。ハ。立田山タケニミサカの。川カワ。

